

学会が事務局として運営を行った。運営委員長には幹事学会の日本気象学会理事の竹内が就任し、また気象学会の事務局だけでは人手不足ということもあって、気象研究所物理気象研究部がシンポジウムの事務局として運営のお手伝いをした。シンポジウムの運営を、他の共催学会と比べて規模の小さい気象学会が幹事学会として担当したが、学会関係者の非常な努力によって、順調にシンポジウムを開催することが出来た。特に、開催日直前の伊豆大島三原山の噴火に伴い、当初予定していた気象庁講堂が会場として使用出来なくなるというハプニングがあったが、東京電機大学河井助教授のご尽力で、急遽東京電機大学工学部7号館大教室を借用することが出来、

比較的スムーズに会場の変更を行うことが出来た。また、懇親会についても同様に会場を新東京ホテルに変更し、約50名が参加して盛会に行われた。

今回のシンポジウムの開催にあたって、あまり問題もなく順調にシンポジウムを運営することが出来たことは、運営委員および共催学会の関係者の方々のご協力によるものであり、この誌面を借りて関係者に厚く感謝する次第である。

今回のシンポジウムは、日本鋼構造協会が幹事学会として、2年後に行われる予定である。今回のシンポジウムでは気象関係者の参加および研究発表が増加することを期待している。

日本気象学会誌 気象集誌

第II輯 第65巻 第2号 1987年4月

山形俊男：熱帯の季節内擾乱の起源に関する簡単な湿潤モデル

鬼頭昭雄・時岡達志：気象研究所大気大循環モデルによる対流圏循環のシミュレーション

第III部 アジアの夏のモンスーン

柏木啓一：気象庁全球予報解析システムにおける衛星観測データの影響

田口彰一・浅井富雄：北半球500 hPa高度場における大規模長寿命擾乱の統計的解析

栗原弘一・露木 義：日本付近における順圧的な亜熱帯高気圧の発達と北太平洋上のロスビー波動的な波動の伝播との関連：1984年8月の解析

阿部成雄：台風の蛇行運動と非対称性

広瀬勝己・青山道夫・葛城幸雄・杉村行勇：1961年から1980年までの核実験に由来する Sr^{90} 、 Cs^{137} と $\text{Pu}^{239,240}$ の年間降下量：簡単なモデルによる解析

田中正之・中澤高典・大島裕之・青木周司：沖縄における大気中の二酸化炭素濃度の時間的変動

石崎健二：浮遊時間が短い間での煙塊の運動

吉澤宣之：準二年振動に対するスケール依存性を持つ放射減衰の効果

要報と質疑

August H. Auer：力学・熱力学・雲物理学的に見た大雪現象に対しての補遺

小林愛樹智・林田佐智子・岩坂泰信・大和政彦・小野 晃：ライダー観測による偏光解消度の考察—エアロゾルの化学組成に関連して

菊地勝弘：十八花の雪の結晶の発見

講演企画委員会からのお願い—ポスターには題を！

秋季大会（10月14日～16日、札幌市）のポスター・セッションで発表する方は、ポスターの上部に表題（発表題目）と発表者名を明記して下さい。なおポスターの書

き方とポスター・セッションの方法については、No. 34. 5.（昭和62年5月号）353 ページをごらん下さい。